

4. 水辺交流会

今年度実施した社会実験の成果報告をひろく周知し、水辺に対する社会的関心を高める機会とするために水辺交流会を企画し実施した。水辺交流会“わかやまミズベ MEET UP ”と題しパネリストに、HOMES’創建所長の島原万丈氏や、富山観光遊覧船株式会社代表取締役中村孝一氏と息子さんとで常務取締役の中村青児氏、ミズベリングアドバイザーの田中里佳氏、ユタカ交通株式会社代表取締役の豊田英三氏を迎えた。また和歌山県すみす芸人わんだーらんどによるオリジナル漫才で社会実験ネタを披露していただき会場を和ませた。

日時：2018年2月17日土曜日

場所：フォルテワジマ4階イベントホール

第1部

プロジェクトメンバーからの趣旨説明

わんだーらんどによる漫才、お題は「和歌山の水辺イメージ」

島原万丈さんの講演「都市の指標について」

プロジェクトメンバーからの社会実験レポート

パネルディスカッション 島原万丈、田中里佳、吉川誠人登壇

伏虎義務教育学校の児童からの報告

第2部

わんだーらんどによる漫才「船を浮かばせてみたら、客がたくさんくる？」

中村孝一さんの講演 「遊覧船をはじめることについて、そして今日的な課題」

クロストーク 中村孝一、中村青児、豊田英三 登壇

タスクフォースめくりパネルを使って検証

パネルトーク

意見交換

島原万丈さんは「センシユアス・シティ・ランキング」についてお話され、まちの魅力の測り方は、人口比による保育園やお店、病院数、公園の広さなどで測るのではなくて、感覚や身体、五感やアクティビティ、関係性（コミュニティに帰属しているか、神社やお寺に参拝しているか、地域のイベントやボランティアなどに参加しやすいか）などの評価基準で住みたい・快適な都市をランク付けするべきだとお話しされた。



中村孝一さんは、富山市のドブ川だった松川を再生し、遊覧船を立ち上げるにあたり、サンアントニオを参考にしたことや、人力で浚渫をして体を壊したことで県が動いたこと、経

済的な側面からのお話などとても参考になるお話をされた。

ユタカ交通の豊田英三さんは、経営者として県や市と民間企業の提携や参入についてのお話や、遊覧船を運行する上での問題点などお話しされた。

伏虎義務教育学校の6年生の研究・発表は、市堀川だけではなく、大門川や和歌川・和田川・土入川・千手川などでも水質やゴミの調査した結果のことや、学校で水族館を実施した話など報告してくれた。また3月3日と4日に歩く教室を実施するので参加者を募集した。

また、会場からで、「世界一統」の南方雅博さんは市堀川の土手に日本酒テラスやお店などを作る計画を実行に移していければと発言された。足漕ぎのスワンボートの可能性や、桜や花を植えて環境をよくしたり、水質をよくしたりしていきたいという意見、和歌山の川といえば紀の川なので、堰を開閉式にし、遊覧船や水上バスでも行き来出来るようになるとか、紀の川の活用方法も考えた方が良くという意見もあった。

アンケート調査によると、今回の水辺交流会の評価は8割の方が良かったと評価し、水辺のまちづくりへ期待しているし、関わりたいと思っている方が8割を超えた。